

課題挑む

技術士のソリューション

[161]

アサリの棲息環境

子供の頃に潮干狩りを楽しんだ三河湾は今、埋め立て地造成の深掘り跡や大型船の泊地などのデッドゾーン(底棲生物5種未満)化で湾全体の生物に影響があるという。アサリの棲息環境整備による豊饒の海づくりを目指し、「硫化水素抑制



名邦テクノ技術参与

井上 祥一郎 (建設、上下水道、衛生工学、農業、環境、森林、水産、応用理学、環境部門)

・ケイ酸供給・砂分離残置システムを愛知県に提案中だが、2011年10月、硫化水素抑制に係る「人工水底窪地を原因とする青潮発生抑制方法」に特許がおりた。

・ケイ酸供給・砂分離残置システムを愛知県に提案中だが、2011年10月、硫化水素抑制に係る「人工水底窪地を原因とする青潮発生抑制方法」に特許がおりた。

・ケイ酸供給・砂分離残置システムを愛知県に提案中だが、2011年10月、硫化水素抑制に係る「人工水底窪地を原因とする青潮発生抑制方法」に特許がおりた。

硫化水素抑え青潮防ぐ

貝類など生存率向上

のパイライト(黄鉄鉱)を曝気により酸化鉄に変え、窪地の硫化水素と反応させて貝類などの生残率向上を図る技術。

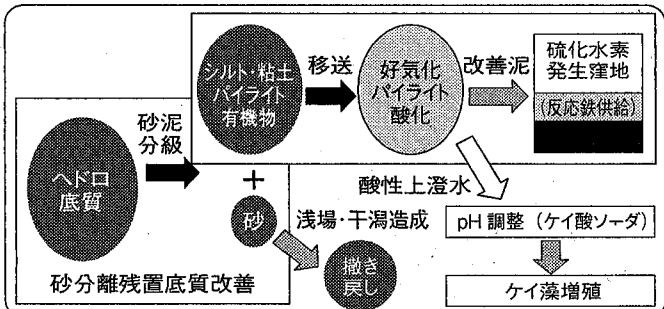
のパイライト(黄鉄鉱)を曝気により酸化鉄に変え、窪地の硫化水素と反応させて貝類などの生残率向上を図る技術。

のパイライト(黄鉄鉱)を曝気により酸化鉄に変え、窪地の硫化水素と反応させて貝類などの生残率向上を図る技術。

地球環境の技術の里帰り

酸性硫酸塩土壌特有の硫酸溶出によるものと和田富吉名古屋大学農学部助教授(故人)に教えられ、

科学技術・大学



原因が特定でき、前述の発明への道が開けた。

赤土客土が有効

山陰の宍道湖ではヤマ

山陰の宍道湖ではヤマ

山陰の宍道湖ではヤマ

山陰の宍道湖ではヤマ

向が止まらない。昨年は強風が吹き荒れ、窪地から青潮が発生したという。二枚貝は貧酸素には耐えるが硫化水素には弱い。50年前、宍道湖と大橋川でつながる中海で、サルボウや筏養殖の力での硫化水素による繁死対策として赤土客土の有効性を報告した資料を、島根・鳥取両県の水産試験場から頂いた。干拓地が多い土地柄、酸性硫酸塩土壌の研究も盛んで、島根県農業技術センターはこの情報をネット公開している。

タタラ製鉄の伝統を継ぐ日金属も安来にある。稲作技術を有用水産物である二枚貝生産に応用した神話の国は、まさに上記発明技術の故郷である。

干拓で縮小された秋田県八郎湖で、ヤマトシシミが爆発的に増えたことがある。それを支えた餌のケイ藻の豊富さや、適度な砂泥底質が想定される。

宍道湖の豊饒化に向けて、里帰り技術の硫化水素抑制法に加え、ケイ藻につながらるケイ酸供給と、ヘドロ分級による底質改善策を提案したい。森を守る目的で間伐材多使用の現地拠点建設を鋭意検討中である。

(火曜日に掲載)